

# 岩本ゼミナール機関誌

第3号

1998年度版

京都大学 経済学部

岩本武和研究室

# 岩本ゼミナール機関誌 第3号

## 目次

|   |       |     |
|---|-------|-----|
| 近況報告  | 岩本 武和 | 4   |
| I ゼミ単位取得論文  |       |     |
| 1. バブルの形成とその要因に関する一考察   | 岡崎 将也 | 7   |
| 2. 戦略的通商政策は正しいか   | 猪俣 明彦 | 25  |
| 3. 日本の電気通信産業における自然独占性に関する一考察  | 関 彰子  | 41  |
| 4. ゲーム業界の仁義なき戦い   | 永田 一大 | 57  |
| 5. 日本の国際貢献とODA  | 濱 和彦  | 69  |
| II 2・3回生年間活動報告およびインゼミ報告   |       |     |
|   | 藤島 正信 | 89  |
|   | 久田 洋平 |     |
|   | 平井 大悟 |     |
| III 自由論題  |       |     |
| 1. ユーロランドと地域政策  | 岩本 武和 | 101 |
| 2. 対日食糧援助の開始と継続   | 柴田 繁紀 | 105 |
| 3. INDUSTRIAL POLICY AND INTRA-INDUSTRY TRADE<br>: STRUCTURAL REGULATION IN AN OPEN ECONOMY | 高橋 信弘 | 121 |
| IV 先輩よりのお言葉   |       |     |
|   |       | 139 |
| V 97年度岩本ゼミナール決算報告   |       |     |
|   | 川村 直弘 | 145 |
| VI 編集後記   |       |     |
|   | 岡崎 将也 | 146 |
| VII 98年度岩本ゼミナール名簿   |       |     |
|   |       | 148 |

## 編集後記

皆様のご協力をもちまして、無事、岩本ゼミ機関誌第 3 号を発行することを心より胸をなで下ろしています。98 年度は初の岩本ゼミ O B 会となる青竹会の開催があり、先輩方のご活躍ぶりや後輩の元気よさを確認することができ、ゼミの行く末を頼もしくも喜ばしく思います。現ゼミ生、O B の人数も 60 名を超え、名簿編纂を行いながら、その数の多さに幾分驚きを禁じ得ませんでした。(私がゼミに入りたての頃はまだその半分くらいでしかありませんでした。) 驚くことはその人数だけではありません、岩本ゼミの伝統となりつつあるディベートも複数の大学を相手に、テーマを掘り下げた、より内容のあるものになってきており、ゼミの質も年々レベルアップを果たしているように思われます。

岩本ゼミの魅力はなにかと聞かれれば、先生のお人柄、T A とゼミ生の距離感の近さ、そして先輩と後輩が気兼ねなく入り交じって論議、勉強できる雰囲気だと思います。他ゼミのことは知りませんが、こんなに個性的な面々と学習環境に恵まれたゼミは少ないのではないのでしょうか、少々持ち上げすぎだという意見もあるかもしれませんが、私は 3 年間お世話になったこのゼミをそう評価しています。今年卒業するゼミ生は四期生 5 名 (3 名?)、三期生 1 名となりますが、多種多様な方面で活躍なさっている先輩方に負けずいろんな分野の就職先に散っていきます (今年は官僚が多いです)、ゼミ生が幅広い分野に散って、そして青竹会でまた顔を合わせるといったことを、今度は招かれる身として味わいたいと思います。

その、青竹会に関して、会計的なことに関して、ここで少し事務的な事を記しておきたいと思います。まず青竹会に関しては、先生の留学などが無い限り二年に一度の開催としたいと思います。時期は例年、敬老の日としてもよいのではないのでしょうか。つまり、次の第 2 回青竹会開催は 2000 年の 9 月 15 日予定で幹事は六期生の丸山君に頑張ってもらおうと思います。なぜ 2 年に 1 度かといえば、ちょうど面識がある範囲が 2 年下ぐらいまでなので、あまり世代差を離れさせない程度の開催でいこうという理由です。決定の詳細は機関誌第 4 号の巻末で藤島君に記してもらいます。

次に、ゼミ予算に関してですが、青竹会の特別会計に加えてインゼミの複数化により、先輩方に累積していただいた黒字額をほぼ枯渇させてしまいました。これは、ゼミ会費の負担を軽減しようと O B からもあまり徴収しなかったわたしの落ち度でもあり、反省いたしております。今後、O B の数の方が現ゼミ生よりも多くなること、機関誌発行部数、郵送料も増大することを考え、ゼミ会費徴収の体系化を果たしたいと思います。すなわち、O B は一律、年 7000 円、現ゼミ生は年 4000 円とし、青竹会の費用は参加者のみ別途徴収

とすることで現ゼミ生の金銭的負担を減らそうと思います。このためには、OBが確実に毎年、ゼミ会費を口座にふりこんでいただかないことには、現ゼミ生の負担が増えることになります。従って、インゼミの始まる秋までに、盆休みもある 8 月いっぱいまでには以下の口座にOBは7000円を振り込んでください。よろしくお願いします。

第一勧業銀行 百万遍支店 普通預金

口座番号 476-2003967

京都大学経済学部 岩本ゼミナール 岩本 武和 様

最後に、名簿の住所、郵便番号、電話番号、e-mailに誤りがある場合や、新居への引越し、留学、実家の変更など名簿への変更がありましたら、その年度の4回生代表となる機関誌編集委員と先生のもとに連絡を入れてください。あと、各期の代表は同期の連絡役として後輩の名簿編纂にご協力ください。年々、ゼミの規模が大きくなるにつれ連絡網が大変になりますので…、今後は岩本ゼミのメーリングリストを作成したいと思いますが、まだメールをお持ちでない方もいらっしゃるのもう少し、様子を見たいと思います。なんか、細かいことが羅列されましたが、ここで岩本ゼミのお金と情報の流れを整理しておかないと、大変なことになってきますので記載させていただきました。

ふりかえれば、岩本ゼミに入ったばかり時はただただ、谷口さんや加地さんのような偉大なゼミ長を下から眺めていただけだった自分がゼミ長になって、今、機関誌の編集を行って、やがては社会に出て行き、次回の青竹会を楽しみに待とうとしていることが信じられません。岩本ゼミでの3年は長いようであつという間でした、歴代のゼミ長に比べれば取るにたりないことしかできなかつたと思いますが、自分なりにはよりよいゼミ環境作りに努めてきたつもりです。幸いにも後輩達は優秀な人材が多数そろっており、岩本ゼミを充分支えていってくれるでしょう。将来、先生が留学なさる時は先生不在のゼミを維持していかねばならないでしょうが、OB、ゼミ生、TAが一丸となって乗り切っていきたいと思います。

最後になりましたが、3年間見守ってくださった岩本先生、アドバイスを与えてくださった高橋さん、柴田さん、ゼミをよくまとめきった藤島君、そして機関紙へのお言葉を送って下さった先輩方、青竹会に参加していただいた方々に、99年卒業生を代表して感謝いたします。本当に3年間ありがとうございました、次の青竹会でお会いできることを楽しみに卒業していきたいと思います。

1999年2月25日

編集委員 岡崎 将也

岩本ゼミナール機関誌 第3号  
1998年度版

1999年3月24日  
京都大学 経済学部  
岩本武和研究室 発行  
禁無断転載